

《担当者名》 飯泉智子 柳田早織

【概要】

言語聴覚障害学の各論のひとつである発声発語障害のうち、運動障害性構音障害、成人にみられる器質性構音障害、音声障害について学ぶ。

【学修目標】

発声発語障害のうち運動障害性構音障害、器質性構音障害（成人領域）、音声障害と介入について理解する。

1. 神経学的検査（神経学的所見）を説明できる。
2. 発声発語の正常・異常を判定し、発声発語障害の治療に適用できる。
3. 発声発語の側面（声、共鳴、構音、流暢性、韻律）の評価方法を説明できる。
4. 声の聴取判定（GRBAS尺度）の方法と問題を説明できる。
5. 発声機能検査の種類と測定についての概要を説明できる。
6. 感覚・運動異常による発声発語の変化について列挙できる。
7. 神経筋疾患における発話特徴を説明できる。
8. 口腔・中咽頭がん除後の構音障害の特徴と評価・治療法を説明できる。
9. 構音と発話明瞭度の評価方法を説明できる。
10. 喉頭・鼻咽腔閉鎖不全に対する外科的方法と装具を述べられる。
11. 鼻咽腔閉鎖不全と構音障害の治療方法を説明する。
12. 運動障害性構音障害の治療の原則と基本的方法を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	成人発声発語障害学概論	発声発語障害学の概説 課題：基礎科目と当該科目との関連性を整理し、基礎知識を復習する。	飯泉智子
2	運動障害性構音障害	運動障害性構音障害の特徴	飯泉智子
3	運動障害性構音障害	運動障害性構音障害の特徴	飯泉智子
4	運動障害性構音障害	運動障害性構音障害の特徴	飯泉智子
5	運動障害性構音障害	運動障害性構音障害の特徴	飯泉智子
6	運動障害性構音障害	評価の基本的な考え方	飯泉智子
7	運動障害性構音障害	ことばの音の生成の生理学的基盤と障害の概説のまとめ 課題：基礎科目と当該科目との関連性を整理し、基礎知識を復習する。	飯泉智子
8	運動障害性構音障害	発声発語器官の機能検査	飯泉智子
9	運動障害性構音障害	聴覚的印象による評価	飯泉智子
10	運動障害性構音障害	その他の検査	飯泉智子
11	運動障害性構音障害	運動障害性構音障害のリハビリテーションの基本的な考え方	飯泉智子
12	運動障害性構音障害	機能訓練の基礎知識	飯泉智子
13	運動障害性構音障害	呼吸・発声機能の訓練法	飯泉智子
14	運動障害性構音障害	呼吸・発声機能の訓練法	飯泉智子
15	運動障害性構音障害	鼻咽腔閉鎖機能不全の治療法	今井智子
16	運動障害性構音障害	構音器官の訓練法	飯泉智子
17	運動障害性構音障害	発話明瞭度の向上を目的とした訓練 ・発話速度の調整法	飯泉智子
18	運動障害性構音障害	発話明瞭度の向上を目的とした訓練 ・発話速度の調整法 ・言語音の明瞭化に関する方法	飯泉智子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
19	運動障害性構音障害	補助手段、その他の介入法	飯泉智子
20	運動障害性構音障害	評価に基づく支援プログラムの立案と支援の実際 課題：事例学習によってこれまで学習した内容を整理し、獲得した知識を関係づける	飯泉智子
21	器質性構音障害	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害の特徴	飯泉智子
22	器質性構音障害	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 評価・診断	飯泉智子
23	器質性構音障害	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 治療（補綴的治療・言語治療）	飯泉智子
24	音声障害	音声障害の特徴1	柳田早織
25	音声障害	音声障害の特徴2	柳田早織
26	音声障害	音声の検査・評価1 ・問診 ・聴覚心理的評価	柳田早織
27	音声障害	音声の検査・評価2 ・内視鏡検査 ・音響分析	柳田早織
28	音声障害	音声の検査・評価3 ・発声の能力と機能の検査 ・自覚的検査 ・その他の検査	柳田早織
29	音声障害	音声障害の治療1 ・外科的治療 ・薬物治療	柳田早織
30	音声障害	音声障害の治療2 ・音声治療	柳田早織

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【教科書】

大森孝一 編 「言語聴覚士のための音声障害学」 医歯薬出版 2015年

日本音声言語医学会 編 「新編声の検査法」 医歯薬出版 2009年

熊倉勇美 編著 「言語聴覚療法シリーズ9 改訂運動障害性構音障害」 建帛社 2011年

【参考書】

Duffy, J. R. 著、苅安誠 監訳 「運動性構音障害 - 基礎・鑑別診断・マネージメント - 」 医歯薬出版 2004年

Raphael, L. J. 他 著、廣瀬肇 訳 「新ことばの科学入門 第2版」 医学書院 2010年

熊倉勇美 他 編 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」 医学書院 2015年

廣瀬肇 他 著 「言語聴覚士のための運動障害性構音障害」 医歯薬出版 2011年

溝尻源太郎 他 編著 「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害」 医歯薬出版 2000年

日本音声言語医学会・日本喉頭科学会 編 「音声障害診療ガイドライン2018年版」 金原出版 2018年

苅安誠 他 著 「言語聴覚療法シリーズ14 音声障害 改訂版」 建帛社 2012年

廣瀬肇 著 「音声障害の臨床」 インテルナ出版 1998年

城本修 他 著 「STのための音声障害診療マニュアル」 インテルナ出版 2008年

【学修の準備】

解剖生理学、基礎人間科学、音声学、音響学、神経学、音声言語聴覚医学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学などの関連基礎科目をよく復習しておくこと。（80分）

配付資料と教科書の重要な用語の定義を調べ、配付された課題を解き解説を作成すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

飯泉智子（言語聴覚士）、柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、運動障害性構音障害，器質性構音障害，音声障害のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。